

令和5年度第1回浜松市地域包括支援センター 運営協議会会議録

1 開催日時 令和5年7月28日（金） 午後7時から午後8時40分

2 開催場所 浜松市役所北館1階 101・102会議室

3 出席状況 出席委員 浅井陽介委員 才川隆弘委員 月井英喜委員
三輪真知子委員 弓桁智浩委員 松岡徹委員
杉山晴康委員 鈴木美枝委員 村埜美加委員

欠席委員 なし

事務局 健康福祉部：鈴木部長

健康増進課：渥美課長

介護保険課：大村課長

高齢者福祉課：亀田課長、鈴木担当課長、大石課長補佐

地域包括ケア推進グループ：

山根G長、佐久間主任、諸永主任、中村

各区長寿保険課：

（中）近藤課長（東）鈴木課長（西）鈴木課長

（北）久米課長（浜北）片山課長

（天竜）吉林課長補佐

4 傍聴者 1人（一般：1人、記者：0人）

5 議事、内容及び結果 審議の内容

議事1 会長、副会長の選任

前会長、前副会長の退任に伴い、新会長は三輪真知子委員が、新副会長は才川隆弘委員が選任された。

議事2 令和4年度地域包括支援センター事業報告について

(1) 地域包括支援センターの概要説明

(2) 令和4年度地域包括支援センター事業報告

(3) 令和4年度地域包括支援センター委託料決算見込み

議事3 令和5年度地域包括支援センター事業計画について

(1) 令和5年度浜松市地域包括支援センター運営方針

- (2) 令和5年度地域包括支援センター事業計画
- (3) 令和5年度地域包括支援センター業務委託料

議事4 予防給付業務を委託する居宅介護支援事業所の追加承認について
令和5年2月～6月に地域包括支援センターが予防給付業務を委託した居宅介護支援事業所について報告し追加承認された。

議事5 区再編に伴う地域包括支援センター三方原の体制変更について

議事6 浜松市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う実態調査の結果報告について

- 6 会議資料の名称
- 資料1 地域包括支援センター（高齢者相談センター）の概要
 - 資料2 令和4年度地域包括支援センター事業報告
 - 資料3 令和4年度地域包括支援センター活動状況報告
 - 資料4 令和4年度地域包括支援センター業務実施報告書
 - 資料5 令和4年度地域包括支援センター委託料決算見込み
 - 資料6 令和5年度浜松市地域包括支援センター運営方針
 - 資料7 令和5年度地域包括支援センター業務実施計画書
 - 資料8 令和5年度地域包括支援センター業務委託料
 - 資料9 予防給付業務を委託する居宅介護支援事業所の追加承認について
 - 資料10 浜松市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う実態調査の結果報告について
- 当日配付資料 地域包括支援センター三方原の体制の変更について
(報告)

7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音

8 発言内容

議事1 会長、副会長の選任

前会長、前副会長の退任に伴い、新会長は三輪眞知子委員が、新副会長は才川隆弘委員が選任された。

(異議なし)

議事2 令和4年度地域包括支援センターの事業報告について

(事務局) 資料1～5に基づき説明

<質疑・意見>

(委員)

職員配置基準について、高齢者人口が増えている中で職員の人数が増えているのは良いが、職員の人数の根拠は何か。中山間地域はカバーする範囲が広く、また人材確保も厳しい。ケアマネジャーも確保が厳しい中で、3職種の人材が足りないから減額というのもしんどいと感じる。

(事務局)

職員配置基準は、厚生労働省の方で示された基準を基に、少し手厚い人数を定めている。

(事務局)

厚生労働省の基準というのは、「高齢者人口が3000～5999人の場合は専門職を3名置く」という基準である。これをベースにし、そこから高齢者人口が2000人増加するごとに、1名ずつ追加で配置をしている。また中山間地域等については4つの支所を設けており、天竜区のセンターには1名ずつ加配をしている状況である。

(委員)

人数や加配について、実情に合っているかの確認はお願いしたい。数字だけで足りている、足りていないと判断するのではなく、地域包括支援センターや地域住民の声を拾い、反映されているかの確認をしてほしい。

(委員)

資料3について、前年からお伝えしているが、それぞれの内容が適切かどうかの確認を行政がしているか、またその仕組みができていないか。例えば、ネットワーク構築活動を包括三方原は100件行っており、それは素晴らしいと思う。しかし回数をこなして何がどうなったか、少ないセンターはなぜできなかったか。権利擁護に関しても多いところと少ないところの差があるが、ある相談について、それが「権利擁護に関すること」という認識はあるか、受付表はきちんとしたものがあるか。広報啓発活動についても包括により130回のところもあれば、1回だけのところもあるのはおかしいと思う。行政側もその数字を見れば何がやれているか、どうつながっているかなどをフィードバックはしていると思う。またケアマネジャーへの支援指導件数について、支援が多いのはありがたいが、指導が多いのはどうか。同じケースで相談をしても、一方では支援、一方では指導ととらえられているといけなないと思う。もし指導件数が多いのであれば、包括からケアマネ連絡協議会に課題として挙げていただければスキルアップにつながると思う。ただ包括で謳っているケアマネジャーの体制づくりであったり、レベルアップを目指すためには、この数字だけでは分からない部分もある。ロコトレもそうだが、何故やれているところとやれていないところがあるのか。地域ケア会議も回数がすべてではないとはお伝えしたが、そのケースの今後のフォロー等ができていないかも見えるようにしていただきたい。介護予防の委託事業についても、中山間地域などケアマネジャーの数が少ない地域もあるので、一律に数字で判断をするのは良くないと思う。そのあたりの内容の確認や仕組みはどのようになっているかを教えてほしい。

(事務局)

包括の事業が適切に実施されているかどうかについては、中間評価のような形にはなるが毎年評価している。その年の4～9月までの活動を現地調査し、書類なども確認しながら実情を聞き、まとめている。ただ、今いただいた視点も大事と思うのでさらに適正な評価ができるように考えていきたい。

(委員)

現時点では適正かどうかの確認のベースはなく、相談受付表も全市統一ではなくそれぞれの判断で行うものという認識でよいか。

(事務局)

相談受付票については「地域包括支援システム」を用い、22包括が同じ様式で、案件に応じて入力していただいている。当システムは今年の1月から導入をしているが、導入にあたり、カウントの仕方についてもすり合わせをし、同じ視点でカウントできるような仕組みが進んでいる。

(会長)

実施報告書には22包括の地域の特徴と課題が出ており、その結果が資料3に数字でまとめられている。その数字だけではなく、実施報告書も見たうえで地域が持つ特徴や課題を事務局は把握していると思うが、数字だけを羅列してもどう意見を申し上げたらよいか分かりかねるため、可能な限り資料3にはコメントを添えていただきたい。

(委員)

認知症サポーター養成講座の「依頼」と「企画」について、「依頼」とは、どこからやってほしいというお願いが来ること、「企画」とは包括が自ら企画したもの、ということで良いか。

(事務局)

その通り。

(委員)

サロンのなかで、認知症と思われる方の対応を迷っている。認知症のフォローで包括の力を借りたいと思っていたので確認させていただいた。

議事3 令和5年度地域包括支援センター事業計画について

(事務局) 資料6～8に基づき説明

<質疑・意見>

(委員)

重点取組事項の3に関連することだが、令和5年度の実施計画書の内容を確認すると、多問題への対応はどこも苦慮していると思う。地域包括支援センターは高齢

者分野が領域だが、隣り合わせの障がい者、子ども、生活困窮者の相談があった際、いかに関連機関のネットワークを含めて解決するかを考えるのは、1つの地域包括支援センターだけでは厳しい。どうしてもワンストップの支援体制が構築できずに課題が長期化してしまう。そして長期化する中で課題が複雑化する悪循環が生じている。これを止めるためには、行政が主体となって機関同士の連携の仕方を示したり、「地域包括支援システム」にアクセスできる権利の設定をするなど、他の関連機関から情報を引き出し、物理的に距離を縮められる仕組みをつくらないことには、地域包括支援センターで解決することは難しい。そこに注力しながら新しい包括の在り方を検討していただきたい。

(事務局)

全ての地域包括支援センターで連携に向けた取組みはしている。3者で研修会を開催するなどしているところもある。ただ、行政が現場から離れているので十分に理解できていないところもある。現在、国の方でも「重層的支援体制」の整備が進められており、浜松も令和6年度から実施する。全てがその中で取り扱えるわけではないが、普段の支援の中で単独または連携でできることはやっていく。集まって検討しなければならないようなものは「重層的支援体制」の中で実施できるよう市の中で検討している。包括ともしっかり連携をし、包括だけの負担にはならないようにしたい。

共通の情報ツールについては、個人情報の問題や、それぞれの分野の違いもあり、今はない状況である。一部の個人的なネットワーク内ではそれぞれ活用されているツールがあるかもしれないが、基本的には今後研究していく状況にある。

(委員)

すぐにできる話ではないが、看過できるものでもない。おそらく各包括は一個一個の事例に取り組みながらその時の解決方法は導き出せていると思うので、上がっている成功事例を共有するだけでも他の包括の物差しにはなる。具体例が無くても情報共有会や研修会の開催、データベースの一本化があればありがたいとどこも感じている。行政が難しいと感じるかもしれないが、早くできる方法を模索してほしい。

(会長)

重層的な取組みもそうだが、各々の地域包括支援センターで地域ケア会議をやり、ネットワークを形成して他問題の解決をすることに関して、開催回数に格差があったということが課題である。多い包括と少ない包括が共有できるような研修会や発表会から、ネットワークづくりの課題へと普遍化にもっていくことも手ではないか。データベースというのは物理的な問題なので、研究を重ねてより良いものを作っていくことになるが、これは長期的な問題と考える。

(委員)

業務委託料について、設置区域図を見ると、地域包括支援センター天竜は春野、地域包括支援センター北遠中央は龍山や佐久間、地域包括支援センター細江は引佐といった遠い地域を受け持っているが、そういった地域には交通費等がかかる。薬剤師などの有資格者の派遣にも苦慮している。包括職員も地元に住んでいるのであれば良いが、浜北から天竜に通勤しているケースなどは多々あると思う。提案になるが、過疎地加算（一人当たり人件費を1.1倍するなど）が今後必要ではないか。まちなかの地域包括支援センターはすぐに依頼者のもとへ行けるが、遠方のところはそれなりに時間やガソリン代がかかるため、その分を多少負担するなど配慮をしないと、継続が厳しいところもあると感じる。

(事務局)

圏域の広いところはガソリン代が、人数の多いところはそれなりの費用がかかるので委託料は適宜見直しをしていきたい。また、圏域の高齢者人口が減っている包括が、地域包括支援センター北遠中央やまちなかにもあるので、見直しはしていきたいと思う。

議事4 予防給付業務を委託する居宅介護支援事業所の追加承認について

(事務局) 資料9に基づき説明。

(異議なし、承認。)

議事5 区再編に伴う地域包括支援センター三方原の体制変更について

(事務局) 当日配付資料に基づき説明。

(異議なし。)

議事6 浜松市高齢者保家福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う実態調査の結果報告について

(事務局) 資料10に基づき説明。

<質疑・意見>

(委員)

生の声が聞け、とても興味深い。調査票の回収率に関して、これは高いのか、もう少し上げないといけないのかはどのように考えるか。ここに出てこない方の中に困っている方が多いのではと思ったが、そのあたり、今後の修正に向けて考えていることがあれば教えていただきたい。

(事務局)

回収率は3年前と比べると増えている。3年前は封筒のあて先が委託業者であり、浜松市でないところだったことが問われた。今回は浜松市役所宛てにしたため、回収率が上昇している。統計学上は十分な回収率であるので、目的は達成していると考えます。

(会長)

回収率が 60%台ということで統計学上適切ではあるが、実態がしっかり反映されているかが心配ということだと思う。回答した高齢者 9000 人の意見がどれだけ反映されているかが心配だと思うので、慢心せずにてほしい。

(委員)

(調査結果報告書の) 144 ページの介護保険制度について。項目が「介護保険制度全般についてどう思うか」というのに対しての回答だと、どの項目に満足しているかが拾えないし、これをどう切り開いて分析するかが分からない。また、ケアマネジャーに関する満足度についてだが、家族の方が希望するサービスを調整するのがケアマネジャーだと言われることがあるが、公正中立、自立支援の観点に立つとそのとおりにならないこともあるため、「ご家族や利用者にとっての満足」と、「自立支援」が繋がらない。そこが繋がってくるよう、質問項目に工夫していただけると良いのではないか。

(会長)

この実態調査としては結果が出ているものなので、これをもとに計画策定に向かうと思うが、次回の調査に向けて検討してほしい。

(事務局)

介護保険制度は 2000 年からスタートということで、医療保険と比べると遅れているところがある。そういう中でこういった質問項目が国や県から出されてはいるが、20 数年経過しているのも、そういうところも一歩踏み込んで聞いて行かないといけないというのもっともなご意見である。次回以降検討していきたい。

(委員)

日常の買い物、食事など地域の中で助け合いを進める中で貴重な数字が見えてきた。ここから地域の人やいろいろな方、高齢者の生活支援を考える材料になると思うのでぜひ活用させていただければと思う。

(会長)

この実態調査結果を高齢者保険福祉計画や介護保険事業計画の策定に活かし、また各事業所や住民がこれを見て今後の解決策や課題を見つけるようになれば良いと思う。計画策定にぜひ反映させ、良い計画を策定してもらえればと思う。

- 9 会議録署名人 浅井陽介委員 才川隆弘委員 月井英喜委員 三輪眞知子委員
弓桁智浩委員 松岡徹委員 杉山晴康委員 鈴木美枝委員
村埜美加委員 (「署名」により確認)

(氏名の並び順は委員名簿に準拠する)